

2018年5月19日

# ニューズレター5月号

～ミッション2030～

## 第1回 福音ワークショップ

### 「あなたにとって福音とは」

日時：4月22日（日）13:00～15:00、 場所：信徒会館ヨセフホール

参加人数：160名（分かち合いグループ数：39）

式次第：13:00～13:10 歌（テゼ「何も持たずに」）・挨拶・流れの説明

13:10～13:40 講話（英隆一朗神父）

13:40～14:10 グループ（4人ずつ）に分かれての分かち合い

「クリスチャンになってよかったことと思うこと」

その内容をキーワードにまとめる

14:10～14:50 グループからのキーワードの分かち合い・発表

14:50～15:00 まとめ（英隆一朗神父）

#### 1. 自分にとって福音とは—講師：英隆一朗神父

##### 1-1：はじめに

- ・ミッション2030に関して、昨年度の「祈りを深めるセミナー」は講師からのインプットする形式で開催して来た。本年度は、「福音を伝える」年にあたり、皆様自身が自分で考えるワークショップ形式で隔月開催する予定である。
- ・まずは福音とは何かを自分なりに確かめて（発見し分かち合う）、その後にそれをどの様に伝えるのかに意識を転換して行きたい。

##### 1-2：自分にとっての「福音」とは

- ・福音とは、ギリシア語で「エヴァンゲリオン」、日本語で「よき知らせ」、英語で”Good News”（マルコ 1:14）。私にとっての「よい知らせ」とは何であるのかを、以下の通り7つの切り口からお話ししたい。
- ・まず私が受洗したのは大学2年生の時。中学生からミッションスクールに通ったが神様に関しては今一つ心に響くことがないままに来ていた。大学に入って、自分の人生で意義のあることを求めていたが、当時はインドシナ半島が諸紛争で混乱する中、カンボジアからタイに大量難民が発生し、それを上智大学が支援することになり、学生

ボランティアとして現地に派遣されることになった。その様な行動が伴うことにより、派遣の直前に洗礼を受けた。

1-3：自分にとっての「福音：よき知らせ」（6つのポイント）

① 「困っている人を助けることから湧いてくる喜び」（行動を伴って隣人を愛する：よきサマリア人）

カンボジアに派遣されるまでの悩みは自分のことを中心に悩んでいたが、他人のことを考えて行動を起こすと喜びが湧いて来て、愛することが喜びであり自分の生き方を変えることになった。それは丁度、自分の人生が「白黒テレビ」（何か喜びがない）から「カラーテレビ」（喜びが湧いてきた）に切り替わった様な感覚であった。他人を助けることで何か広がる感覚となり、喜びに繋がって行った。これは今も変わることがない。

② 「神様がありのままの私を愛して下さっているという実感」

ボランティア参加後に、大学内で信仰活動の団体の一つである CLC（クリスチャン・ライフ・コミュニティ）に出会い、いきなり8日間の霊操に参加した。そこで、最初は何をしていいのか戸惑っていたが、黙想という普段とは違う体験を通して神様がありのままの自分を愛して下さっているという実感を持つことが出来た。若い頃特有の自己嫌悪感や劣等感が自分にもあったが、愛されているという実感が湧いて来たことは大きな喜びであった。人間同士というよりも神様が直接に導いて下さるという実感である。神父になろうとした理由は、その様な神様が導いて下さっているという実感を広く人々に伝えたいと思ったからである。

③ 「神様という支えがある、拠り所があるというのが福音（よい知らせ）」

苦しいことに対して、最終的に神様が支えてくれているからどうにか乗り越えて行ける。自分にとって、神様がいなかった時代は（受洗前）どうしていたのか不思議に思うことがある。当時は一人で耐え、乗り越えて行かなければならなかった。今は神様が付いていてくれる、神様が自分の存在の根っこにおられるから大丈夫という実感がある。若いころの不安が多かった自分に対して、それを支えてくれる人がいたという実感。

④ 「共同体体験」

ボランティアや CLC で同世代の仲間と出会い、同じ方向を向き同じ価値観を持つ仲間と関心がある問題につき語り合える喜び、仲間と一緒に支え合う喜び、共に歩む仲間がいる喜びを味わうことが出来た。現代は効率性の時代であり、いい仲間がいること自体が福音でありお恵みでもある。来年度は「生きた共同体」というテーマでこれに取り組む。

⑤ 「より広い社会の中で困っておられる方々との連帯が福音」

福音と言えるのは、自分の友人や仲間との連帯に限定されているのではなく、社会の中で苦しんでおられる方々がいて、それに対して何もしないでもいいのか、自分

ただだけが楽しんでいて何もしないでいいのかという感覚がある。それらに対して何かをして行く広がり、それが本当の福音ではないか。苦しんでいる人がいるところに関して、いろいろな角度から考えて行くべきである。そうなると、政治と経済面から深く考えないと解決しない。社会の中で置き去りにされている人々がいる現実を前にして、宗教と政治が全く関係ないとは言えないと思っている。フランシスコ教皇も政治的な発言は必要な場合には行っている。それは、人を大切にすることにも繋がる。福音を伝えるということは純粋な信仰のことだけでは済まない面がある。エコロジーの問題も同様に人間の放漫の結果である面が大きく、自然破壊を通してまた人間に戻って行く問題である。福音を生きるということは、そういう大きな広がりの中で考える必要がある。視野が広がる程に意見の相違が生まれ、多様性が生じる面もあるが、それに関してはどういう生き方が福音に基づく生き方であるのかを考え対話をして行く必要がある。

⑥ 「福音的な生き方は、この世的な生き方とは違う（普通の生き方とは違う）」

私の洗礼名であるアッシジの聖フランシスコは、質素というよりも極貧に近い生活に生きた人。あれだけ物を持たないと、反って喜びが湧いてくる面があるのではないか。福音に生きるということはそれくらいのことに関係しており、聖書の中にも貧しさに生きることが書かれておりそれをしっかりと味わって行くことが大切。キャサリン・デュ・ヒュイック・デュハティの「福音を生き抜く」（教友社）にも書かれている通り、福音を生き抜くことは命がけのことであり、そのチャレンジを生きることで魂の底から喜びが湧いてくる。マザーテレサの生き方には御影だけでも気持ちもちが和むのを感じる。

以上、6つのポイントからのお話を申し上げたが、一つのキーワードにまとめるとすると「神の慈しみ」ということにさせていただく。

## 2. グループ分かち合いのキーワードの発表（分かち合い）

参加された方々にとって「クリスチャンになってよかったなと思うこと」につき、4人ずつのグループに分かれ30分間の分かち合いの後、グループ毎に一つのキーワードにまとめて短く発表を行った。以下が、そのキーワード。（発表順）

① 「つながり」

分かち合いメンバー間に「世間」とは異なる神様を通した繋がりを見い出すことができた。

② 「幸せ」、「福音は幸福」

福音と祈りがあると生き返ることが出来る。苦しみがあるから生きている実感を得ることが出来る。

③「信頼」

自分のタレントを恵みとして信頼し神様に近づいて行く。また、イエス様が近づいて来てくれるという信頼。聖書のみことばを信頼し何も持たずに生きて行く。

④「生き方」

困った時に導いて支えて下さる安心感。いつも光として導いて下さる存在であり、それを多くの方に伝えたい。

⑤「支え合う安心感」

日本では数少ないカトリックとして呼ばれた私たちが共同体として支え合い、更に家庭・職場・地域社会の中で支え合って行く。

⑥「私たちのいさおしによってではなく、神様の慈しみによって与えて下さい」

福音はイエスがキリストだということを伝える事。これを心の底から信じて、それを伝えることはそんなに難しいことではない。

⑦「神様からの呼びかけ」

本日の分かち合いメンバーは、長い信者歴の方もおられ、今日初めて当教会に来られた方もおられ、これは神様からの呼びかけである。

⑧「神様の恵みには時がある」 ～待つこと～

⑨「神様を信じて祈ることによる恵み」

祈りを聞いて下さる方がおられる実感。どんな時も祈ることによって心の平安を得られる。苦しい時に一緒に苦しんで下さる方がおられる。自分一人ではなく、祈ることにより、苦しんでおられる方に目を向けられるようになった。

⑩「転換」：生き方の転換

- ・みことばを基準にして物事の判断をするようになった。(基準が出来た)
- ・苦しみの中で、みことばにより生きることの焦点が変わって行った。(生への転換)
- ・受洗後、周囲に福音を伝えるようになった。(書籍を通して)
- ・家庭でも、職場でも受洗を自然に伝え、皆も聞いて来る。(宣教への転換)

⑪「祈り」

死生観が変わった。祈りにより神につながり自分を強められた。祈ることで自分を問う。生活のリズムが出来る。離れている人と繋がることができ、他者と気持ちを一つにすることができる。

⑫「神の愛に支えられていること」

病気や、家族の死に対する支え。力となり慰めとなり、死が怖くなくなった。

⑬「普遍性」

信者歴の長さや教会生活の深さがそれぞれであっても、どこかで共通していて皆が信仰を保ち続けていけるカトリックの懐の深さ。(多様性と普遍性)

⑭「神様に会えてよかったこと」

それぞれの人生の中で神様に会えて、神様に呼びかけられて、それに気付くことが出

来た。いろいろな宗教がある中で、カトリックに出会えて選んで、神様に委ねることができたのが大きな恵み。

⑮「神様からのいただきもの」

神様から招かれ、支えられ、日々いただきものを与えられているという喜び。

⑯「悩み苦しみからの解放、そして生きる喜びへ」

幼児洗礼の方、成人になってからの改宗の方（体を感じる癒し）、求道者の方、生活環境（厳格な仏教）からの解放等々、皆それぞれのイエス様に出会った喜び。

⑰「感謝」

学生時代・社会人・成人になってからのそれぞれの受洗。受洗により感じる事が出来る神様の限りのない愛と慈しみにひたすら感謝。これまでの人生においても神様が下さっていた愛への感謝。

⑱「福音は私たちの道しるべ」、「ナビゲーション」

福音とは神の計らい、永遠の命、家族のつながり。福音は自分が道を間違えても、最終的には導いてくださるというナビゲーター。

⑲「魂の喜び」（衣食住と言った、世俗の喜びではなく）

外に対する怒りではなく、自我の内側を観ることで穏やかになったという人格の変化。信仰は知識でなく、どの様に神様が働きかけて下さるか私たちが受けとめる事。

⑳「共に歩んで下さる神様」

白黒テレビからカラーテレビに転換する様に、神様の愛に出会い、確かな価値観に出会い、よい日々が増え、祈りの対象がはっきりした。恐れがなくなった。

㉑「神様の愛」

神様の愛を感じて自分に自信が持てる様になった。いつも一人ではなく神様がそばにいて下さる。

㉒「神様と周りの人々とつながっている喜び」

神様が見守っていて下さるので何も怖いものがない。苦しみは神様が吸収して下さる。人を助け、感謝することを知る喜び。

㉓「喜びを伝える」

教会が我が家。クリスチャンになり明るくなって、家族からも「お前が明るくなって嬉しい。自分も洗礼を受けたい」と言われた。福音とは、喜びを伝えること。

㉔「決して消えない灯がともった」

苦悩を通して、自分の願いから他人のために祈るようになった。つらいことがあっても灯がともっていることにより乗り越えられる。抛り所が出来た。

㉕「聖霊に支えられて」（心の軸を持った、心の支えを持った）

聖霊に支えられ、私たちは心の軸を持った。信者歴、70年の方、10年の方、1年の方も何の違和感のない分かち合いが出来ていることの喜びと驚き。

②⑥ 「多様性に生きる」

生き方は多様でいいのではないか。神様に会える場、自然の中・心の中・聖書の中。政治経済も含めて、私たちは現代をどう生きるかが非常に重要である。

②⑦ 「恵みへの感謝」

他人に親切になることが出来る幸せ。クリスチャンになった解放感。

《時間の都合から発表できなかったグループの分かち合いのキーワード》

②⑧ 「神様からのよびかけ」

②⑨ 「神様への信頼」

③⑩ 「拠りどころ」

支えられて生きる、全てをゆだねる、価値観・判断の基準、生きる場所

③⑪ 「赦されて生きる」

自分と他人を赦せなかった苦しみ → 神様が赦して下さっており、自分を赦して行く（赦された罪人として生きる）

③⑫ 「大きな支え」、「和解」、「感謝」

これまでの歩みが無駄ではなかったことに気付く感謝の気持ちが湧いてきた。また、よきことは全て神様がして下さったと分かり感謝。

③⑬ 「生きた出会い」

③⑭ 「共同体の喜びと恵み」

共に歩む仲間と、「信仰」という共通の話題があります。自分の居場所があります。

③⑮ 「神との出会い」

導かれて喜びを生きる。苦しみの中で得る喜び。

③⑯ 「人生の出発点」

心が暖かくなりストレスを感じない。心が豊かになる。困った事が起きても他人を責めない。他者への関心を持ち、優しい心で接することが出来るようになった。

③⑰ 「人生の目的」：希望、支えを得たこと。

③⑱ 「生き方」：導き、支え、安心感

③⑲ 「日常が福音」（神様が共にいる）

### 3. まとめ（英神父）

- ・福音の喜びを分かち合うと心が喜び始めることをこの会場で感じる事が出来た。また、その喜びの世界も多岐にわたっているのだということもよく分かった。
- ・出発点は、神の愛、恵みの世界が広がっているということ。そして各人が神様に支えられていることが基礎でありそれが福音ではないか。
- ・その基礎の上に、皆さんが神の呼びかけを聞いている。そして、一人一人に時が与えられていて、私たちには転換・生き方の解放があるというのが大きな恵みになっている。

- 以下、どのような恵みがあるのか、印象に残ったキーワードに触れてみたい。  
 ～祈り、幸せな心、魂の喜び、明るさ、灯、祈る恵みがある  
 ～つながりも与えられている。絆、信頼、共に歩む、神とも人ともつながっている。  
 ～生き方を見詰めて行く。ナビゲーション、どちらの道に行けばいいのかの道しるべ。  
 私たちの生き方全体につながっている。  
 ～普遍性と多様性。皆が違っていながらつながっている。皆が同じではなく、多様性を認め合った上での普遍性があるということ、それが福音の喜びではないか。
- 福音は畑に隠されている。だから皆でなるべく畑から掘り出して分かち合っていくことが大切となる。(マタイ 13:44「畑に隠された宝」)
- また、マタイ 25:14の「タラント」の譬え話。タラントとは福音のことであり、それを増やしなさいという話でもあるが、1タラントは日本円に換算して6千万円程の価値となり、5タラントとは3億円に相当する。恵みの世界はタラントという言葉で表される程に大きな世界であるということ。これを私たちは倍に増やしなさいと言われていて、それは、皆さんが隠された福音の喜びを分かち合っていくことによって、その様に増えて行くのではないか。自分の福音探しをしながらそれを分かち合っていくことに本年度は取り組みたい。
- 次回のワークショップは7月1日であり、本日の分かち合いを更に深めて行きたい。また、6月3日の教会祭でも、ザビエル聖堂で本日の分かち合いの続きをしたいと考えており、希望される方はもう一度お集まりいただきたい。詳細は、改めてお知らせする。

#### 【最後に皆様に】

今回のワークショップにおいて、先述の通り39個のキーワードが生まれましたが、皆さんはどのようにお感じになりますか。ご自身の「クリスチャンになってよかったなと思うこと」についても味わってみましょう。(例えば、共感できるキーワードを今回の中から探してみるとか、ご自身の言葉で表してみるとか如何でしょうか。)

以 上

文責：英神父とミッション2030促進チーム